

この春、連日肌寒い日が続いていた仙台も、暖くなる日がそう遠くなくさそうですね。全国で緊急事態宣言が出され、今後が気になります。そんな中ではありますが、「三密」の状態を避けながら、子どもたちと外遊びをしてみてもいいですか？気持ちもすっきりしますよ！見通しがもてない毎日ですが、子どもたちとお家生活を楽しめますように。



<外遊びのポイント>



- お庭のあるお家は庭の草取りを兼ねながら、庭いじりをしてはどうですか？年齢的に同じ遊びを延々と続けるのはまだ難しいです。砂遊び感覚で土をいじったり、石ころを拾ったり、地面に寝転んだりしながら「外で楽しく遊ぶ」をねらいましょう。そうすれば、親もいらいらしないで済みますよ(^o^)。外遊びが終わったら、親子で水分補給も忘れずに。おやつタイムも一緒にすれば、多少散らかしても、へっちゃらです。(*^_^*)
- 歩いたり座位が取れないお子さんも、ひなたぼっこしながら地面に寝転んでみるはどうでしょうか？地面のひんやりした感じ、でこぼこの感じ、日のあたる場所と日陰の違いなど、視覚以外の感覚を活用して体験する良い機会です。草の上に寝転がるのも気持ちが良いですよ。親子で一緒に地球を感じてみるのも良いかもしれません。



<家遊びのプチ情報>

家で子どもと毎日遊ぶのは体力勝負です。そこで、家にある物で遊んだり制作したりするのに、参考になるサイトのご紹介です。「認定NPO法人 芸術と遊び創造協会 東京おもちゃ美術館」のHPで「3分でわかるおうち遊びシリーズ」をYouTubeで公開しています。お家でもすぐ出来そうなものもあります。ぜひのぞいてみてくださいね。そこではサララップの芯を使って、数を数えながら積み木を入れて重ねていく遊びが紹介されています。筒状の道具は見えない・見えにくい子どもの遊びの手がかりとなる身近な道具です。それを手がかりとすることで、数を数えながら入れる、積み木を重ねるなどの遊びが展開できます。また、そのHPの中に美術館のWebマガジン『おもちゃ屋さんの遊び相談室 Vol.5「集中力がありません。」』では、子どもの育ちについて「遊び」がどういう意味を持っているかが丁寧に書かれてあります。視覚障害に特化した内容ではありませんが、読んでみると子どもとの関わりに対する視点の参考になるかもしれません。ぜひ読んでみてくださいね。



※次号は「言語環境」について、皆さんと一緒に考える機会としたいと思います。

